

ハマフエフキ

I 親魚と産卵状況

1. 親魚

ハマフエフキ親魚は昭和53年7月から11月にかけて川平湾内で底延縄で採捕したものを室内水槽で7～10日間、仮収容し魚が落ちついた頃屋外60t水槽へ収容した。餌付には雑魚や冷凍イカを投与し、徐々に冷凍魚や人工配合飼料へ切り換えていった。収容尾数は11尾で雌雄は不明、収容密度は0.18尾/㎡である。

昭和54年度におけるこの親魚群(表1)は自然産卵がみとめられず、したがって種苗生産は行なっていない。産卵しなかった原因としては未成熟魚が多数を占め、産卵可能な親魚はわずか1尾しかおらずそのために産卵しなかったものと推定された。その後同水槽で

表1 養成親魚の大きさ(昭和54年4月28日測定)

No.	尾叉長 cm	体 重 g	No.	尾叉長 cm	体 重 g
1	41.0	1,300	7	36.0	900
2	39.0	1,110	8	51.0	2,200
3	38.0	1,050	9	41.0	1,380
4	37.0	980	10	39.0	1,200
5	37.5	970	11	38.0	990
6	40.0	1,280			

1年間継続養成し、今年度の産卵に至っている。

2. 産卵状況

ハマフエフキの産卵は昭和55年2月20日に浮上卵を確認、その後8月11日まで産卵は続いた。この長期間に鹹水性白点病が6回発生し、その治療のため硫酸銅1ppm薬浴を症状の程度によって2～9日間の範囲で実施した。薬浴期間が終了して1～2日後には普通に産卵が行なわれたことから薬浴による影響はないものと思われた。

表2 月別の採卵量

月	総卵数 粒	浮上卵数 粒	沈下卵数 粒	浮上卵率 %	ふ化仔魚数 尾	ふ化率 %
2	76,800	7,200	69,600	9.3	—	—
3	24,576,000	23,524,800	1,051,200	95.72	19,553,200	83.11
4	27,780,000	25,749,600	2,030,400	92.69	21,660,000	84.11
5	15,432,000	13,248,000	2,184,000	85.84	10,680,000	80.61
6	6,168,000	5,088,000	1,080,000	82.49	3,940,000	76.74
7	1,980,000	1,200,000	780,000	60.60	1,003,200	83.60
8	1,207,200	900,000	307,200	74.55	732,000	81.33
合計	77,220,000	69,717,600	7,502,400	90.28	57,569,200	82.57